

埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟機関紙

発行:武笠真次

〒336-0011さいたま市浦和区高砂 4-1-5 ふじビル2階 編集:澤藤俊昭

TEL・FAX 048-838-0640

http://www.tozans.justhpb.jp/

新年号 目 次

- 1 P) 年頭挨拶「新年を迎えて」 武笠理事長
- 2 P) 安全登山講演会報告、雪山ネットお知らせ
- 3 P) 登山学校 「天気の見方」講座 報告
- 4 P) 登山学校 「総合学習登山」講座 報告
- 5 P) 岩ネット、救助隊活動報告、活動予定
- 6 P) 理事会報告、編集後記



謹んで新年のご挨拶を 申し上げます。

埼玉労山会員の皆様にはご家族皆様とともに清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。併せまして旧年中のご愛顧に心から感謝申し上げます。2013年を表す漢字に私は「感謝」を選びました。日本の言葉に素晴らしい言葉があります。それは「どうもありがとう」です。心が「和む」からだと思います。

今の世の中で権利を主張することは有っても義務が伴わずにいる事が多いのは事実です。感謝の気持ちを忘れずに有難うと素直になれる自分でありたいと願います。

健康で明るく、 元気ある一年に！

中高年登山者の増加に伴い、山行中の心筋梗塞など病気になる突然死などが増えています。「明るく、楽しく、安全に」をモットーに好きな山に登り続けるためには日頃から医師によるメディカルチェックを受け自身の健康状態を知ることが最善で



2013年

1月吉日



す。会山行でパーティを組む場合には、持病を計画書に盛り込むことも大切であろうと察します。

今年度も救助隊による訓練（机上・実技）を通じて山のピンチから抜け出るために、セルフレスキューとチームレスキュー

安全登山をめざす為の 計画から下山まで

計画段階から山仲間として、普段からのコミュニケーション

（人間関係の形成）で相談や十分な話し合いを行い、綿密な調査・準備をして計画書の立案をする。計画書の無届け山行の撲滅や下山報告をきちんとする習慣。下山遅れが発生した場合は会の中でなぜ？下山遅れが発生したのか検討会を設置して頂き、

「埼玉労山の年初めに」

① 1月27日(日)午前、遭難防止・安全教育担当者会議でヒヤリハット事例の検討、労山サポートシステムの活用について、会で経験した事故事例について、情報の共有をはかる。

② 1月27日(日)午後、評議会。議題内容について事前に貴会内で討議頂き意見を持って、ご出席下さい。また、ブロック会議では、事前に議長（南部・北部）、書記（西部・中部）の人選をして頂き、担当して頂く方の承諾をお願いします。

③ 「46期総会をめざして」

議題 a. 2012年県連活動報告・専門委員会報告 b. 2013年活動方針（案）・専門委員会活動方針（案） c. 総会代議員定数確認 d. 全国連盟第30回臨時の議題・第一号議案・第二号議案（総会への要望（個人会員制度など）） e. その他報告事項 ④ 皆の埼玉労山ホームページの更新・ぜひとも会員みなさまから積極的な参加型のホームページの実現を。

⑤ 評議会や総会に向けての準備 今後も山の積極的な推進のため、専門委員会など諸活動を継続発展させましょう。理事会を代表し、埼玉労山会員の声を反映し、全力で奮闘することを誓い、明るく、元気のある一年を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



原因は何か、対策はどうするかなど話し会って頂ければ幸いです。

山行中、ロケーションの良い場所に出たら、会に現在の時刻、通過地点など携帯メール等を利用して連絡して置くのも手かもしれません。GPS機能があれば



埼玉県勤労者山岳連盟・安全登山講演会

“山で遭難しない為の発想の転換”

山岳遭難の教訓と事故要因

講演・・・ 日本山岳協会遭難対策常任委員 渡辺 輝夫氏



埼玉県連盟では、多発する山岳遭難事故を防ぐ為に、毎年1回安全登山講演会を開催して、県連盟員の安全登山、事故防止に対して啓発を行っている。

今回は“山で遭難しない為の発想の転換”「山岳遭難の教訓と事故要因」という題材で、十一月十八日、さいたま市「高鼻コミュニティセンター」に日本山岳協会遭難対策常任委員の渡辺輝夫氏を講師に迎え安全登山講演会を行った。

講演は3部に分け、1部では実際に起こった道迷いからの遭難事例をあげて山岳遭難の事故要因を具体的に解説してくれた。

2部では、事故例から遭難者があるのまを書いた手記を読み上げてくれた。その時には会場が静まりかえり、講師の話に聞き入っている様子が伺えた。

3部では、4班に分けて講師より班ごとにテーマを与えられ各班ごとにグループ討議をして遭難事故要因を分析して各班より発表し、講師がそれに対する

く説明してくれた。

参加者の感想では、①事故事例でのインパクトが強かった。②寒冷障害の話で、高齢者の会員が多いので山へ登る技術より応急対応手当の方が大事だと思える。③グループ討議については、参加者の意見交換ができて非常に良い企画だと思った。ただ討議時間が短くて、慌ただしくまとめざるを得なかった。

⑤その他では、状況に応じてリスクを予測し行動対応することが大事。⑥実際の状況で行動に移せるよう役立てたい。⑦今後の山行に生かしていきたい等…。



解説を細かく



グループ討議の様子

今後も参加者の意見を聞きながら、毎年安全登山講演会等のこういう企画を開催して、県連盟員の安全登山と事故防止に対する啓発を続け、各人の山行に有意義に役立て、山岳遭難事故を減らしていければと思う。

遭難防止安全教育担当
尾手利雪 記

埼玉労山主催

“雪山ネットワーク” 山行案内！

①黒姫山(雪山初級・テント泊)

「1500m付近のブナ林にテントを張り、頂上(2053m)を往復します」

月日 2013年3月30日(土)～3月31日(日)

*計画・打合せ会：2013年3月18日(月) 19時30分より

浦和パルコ 9Fにて

②上越・日泊山 又は 越後・八海山(雪山中級・雪洞泊)

「雪洞づくり・体験が行動の中心となります。」

登頂は、時間・天気によります」

月日 : 2013年4月20日(土)～4月21日(日)

*計画・打合せ会：2013年4月15日(月) 19時30分より

浦和パルコ 9Fにて

【問合せ・申し込み先】 担当理事 徳重博文 (大宮労山) 救助隊長

TEL 048-664-6154

携帯 090-8841-6482

(参加者)	
県連理事	12名
一般会員	28名
合計	40名
(班毎に与えられたテーマ)	
① 田代山登山の出来事	
② 朝日岳登山の出来事	
③ 登山中の病気(心筋梗塞について)	
④ 一般登山シミュレーションについて	
*上記の原因と対策・対処方法	

ハイキング委員会 主催

地図読み実技講習会

① 25年2月17日(日) 初級

奥多摩・青梅丘陵

② 25年3月 3日(日) 中級

奥多摩・高水三山

*講師 「平塚 晶人氏」

*すでに定員につき、申し込みは締め切りました。



第17期 登山学校

第6回講座
「天気の見方」

机上 11月3日
(カルタスホール)
参加者 26名

実技 11月4日
(赤城・鈴ヶ岳)
参加者 24名

「天気の見方」を受講して

受講者 寺田亨 記

十一月三日(土) 机上講座

机上講習では、駒崎先生から天気の基礎と観天望気について講義をして頂いたが、「空気がないと天気は起きない。」と言われても、まさに雲をつかむ様な世界で今いちピンと来ない。

水蒸気は気体で目に見えないこと、ヤカンの湯気が水蒸気でないことを教えて頂き、今更ながらに納得している自分にやがっかり。(小学生でも知っている?)

しかし、空気に含まれる水蒸気と空気の流れで雲が発生し、天候が変わるといふ基本原理が納得でき少し満足。

天気図については(確か中学の授業でラジオを聴きながら書いた覚えがあるけれど)、天気

記号を書く練習問題はとても役に立った。記号を書くのは簡単ではあるが、快晴、晴れ、曇りの定義とか、風力1とはどういう状況なのかもわからない自分にまた失望。

天気図が理解できないのは、地図が読めないのと同じだと思

うと、天気図の勉強をしないとまずいと感じる。

観天望気については、シベリア気団、オホーツク気団、揚子江気団、小笠原気団について、小松先生からも追加説明して頂き、各気団と雲の発生との関係がよくわかった。

雲については、観天望気の大事な手掛りとして、知っておかなければならないことがたくさんあることを痛感した。



講義中の駒崎講師



真剣に学ぶ受講生



小松講師



十一月四日(日) 実技講習

実技講習は貸切バスを使って赤城山鈴ヶ岳登山で行われた。

あいにく、当日は雲ひとつ無い快晴に恵まれ、『天気の見方』講座の実技、『観天望気』空を見上げて雲について学ぶ、に残念な天候となってしまった。十時頃には赤城山総合観光案内所前でバスを降りる。

トイレ、恒例の準備運動を済ませ、鈴ヶ岳登山口に向かって、舗装道路沿いに歩道を歩きはじめた。

目的地鈴ヶ岳は標高1,565m、新坂平登山口の標高は、1,420mで標高差145m、途中鉾柄山の登り降りがあるので、累積標高差は402m、歩行距離5Kmで、コースタイム三時間十分の往路復路同一の行程である。

出発時点の天候は、雲量0の快晴、風力一、気温五度と言ったところ。気持のいい、またとない登山日和である。

案内所を歩き出してすぐ右手に白樺牧場が見えてくる。

緑がすっかり無くなった放牧場が広々と広がり、その奥手の山裾には、葉がすっかり落ちてし

まった白樺林の幹と梢の列がずらりと並んでいて、その壮観さに思わず写真を撮ってしま

歩くこと、2、3分で、白樺

牧場の外れにある新坂平登山口に到着。我が班は、尾手先生、水谷先生、小松先生の三名の運営委員と男性三名、女性二名の計五名班員の総員八名で十時二十分、登山口を出発する。

快晴の秋の澄んだ空気の中落ち葉を踏みしめて順調に進んで行く。一時間程で、鉾柄山に到着。鉾柄山山頂は展望が開けており、さっそく観天望気。飛行機雲が一筋ある以外は雲はひとつもない。西南西方向におそらく渋川であろう市街が見えるが、もやが立ち込めている。高気圧に覆われているため、大気

の動きがないたためであることを、小松先生が教えてくれる。

鉾柄山頂からすぐに急な下りとなり、鈴ヶ岳へ向かう。

水谷先生が下り方を教えて下さった。下りきって、鈴ヶ岳への登りの直前(大ダオ)で小休止。

尾手先生から大福餅を頂いた。目の前には鈴ヶ岳山頂直下の岩場が控えているが、これで元気が出る。

山頂直前の岩場では、再び水谷先生に登り方のアドバ

頂きながら、正午頃には鈴ヶ岳山頂に到着、昼食となった。

天候が良いと気分が良いせいか、行動すべてに余裕が出来る。昼食を食べながら、山での天候を読む力は地図を読む力以上に大事かも知れないと考えたりする。



大ダオ分岐にて

昼食後、記念撮影を終え帰路は同じ道を戻る。急登だった頂上直下の岩場の下りに時間を取られながらも順調に帰路を行く。帰路の鉾柄山での観天望気では、西南西、東北東の空に巻雲が出始め、西南西には飛行機雲も確認されたが、心なしかくつきりしていて、長く残っていた様に思う。

天気図では温暖前線が接近しているとのこと。昨日の講義の前線と雲の図が頭に浮かぶ。雲を見て運営委員のどの先生も、「二日後は天気が崩れる。」という観天望気をされていたが、私にはまだ、なぜ二日後なのか

がわからない。まだまだ分からないことが多いことを痛感する。

赤城山総合観光案内所前に、13時30分頃着で実技講習登山



鉾柄山山頂下で

は無事終了。登山道はアップダウン、岩場、鎖場と変化に富んでいて、尾手先生、水谷先生、小松先生の3先生のコンビネーションの良いサポートと、ペー

ス配分絶妙の班長、頑張り屋の班員に恵まれ快適で充実した登山となった。

ところで、私達が登り始めた頃、中国河北(かほく)省の万里の長城では、大雪で日本人ツアー客4人が遭難し、救出作業が行われていた。

結局四人のうち三人の方が凍死されたが、前日には天候が悪化するのがわかっていて、当日の朝、霧雨だったことから、「雪が降っても強くなる前に戻れる」と判断し、予定通りツアーを行

うことを添乗員とガイドが相談して決めたとのことである。

さらに、ガイド含め五人のパ

ーティで、一人用の簡易テント一つだけしか用意しなかったとも報じられて、さらに残念なのは、亡くなられた三名の方とも初心者ではなく、六千m級の山とか、冬山の経験をされた方もいらした様である。



白樺牧場で鍬柄山を後ろに



市街地の上に雲が

人は間違いを犯すものだと言われるが、霧雨を見て中止していればとか、全員が簡易テントを持っていればとか、後になつて考えれば当然のことも、現場ではどんなに経験を積んでも判断間違いをしてしまうものなのだろうか？

快晴の中、気持ち良く行つて来た「観天望気」実技登山でしたが、同じ日に気象遭難のニュースを目にして、いろいろ考えさせられる講習となりました。

ちなみに、二日後の新坂平登山口の天気は霧雨、気温は低くは無いが、ガスがかかり見通しは10m程度となった模様。

運営委員の皆さん、受講生の皆さん、お世話になりました。また次回の講座でもよろしくお願いします。



独特の鍬柄岳と岩壁



岩壁のトラバース



鍬柄岳山頂で

総合学習は十二月一日～二日の一泊二日の山行で、山城は西上州の鍬柄岳と荒船山の二山である。

参加者が十四名と少なく寂しいが晴れの天気の中、大型観光バスは北浦和を出発し、柳瀬川駅に立ち寄り、関越道、上信越道を進み、下仁田インターで高速道路を下りる。上信電鉄の千平駅近くで下車し、登山開始である。途中バスの車窓から独特の鍬柄岳の姿が見える。

こんもりとした岩山でまばらに岩の間に木々が茂っている。小さいけれども中々迫力のある山である。

岩稜登下降が今日の実技訓練のようである。下仁田ねぎの畑の間を進み、関東ふれあいの道を歩き、登山道に入る。阿夫利神社を経て短いジグザグした山道を登ると岸壁が見えてくる。鎖が続いているが、先に登っていた講師陣がロープを設置してくれている。

簡易ハーネスのつけ方を近くの受講生に教えてもらうことから始める。安全環付きカラビナとスリング、2枚のカラビナを準備し、登り始める。斜め上にトラバースを始めるが2枚のカラビナの必要性を忘れていて一緒に掛け替えてしまい、すぐに注意を受ける。

一つ渡して安全を確保することをすっかり忘れていた。日和田山で岩登りの訓練をしているので、岩場の恐怖はあまりなく、

上部のナイフエッジ様の岩稜もなんのその、頂上にたどり着く。頂上は三六〇度の素晴らしい眺望であるが、狭いので長居はせずに下山。

途中の小尾根で昼食を取りながら、ツェルト使用の体験をする。私も二、三人用ツェルトに入り、暖かさを実感する。宿に入り、今まで学習してきた内容の復習を各講師から受ける。運動生理の水谷講師からは両足開き、両腕を上から大きく回す、しこを踏むような体操を教えていただき実践している。

八木原講師からはクイズ形式のワンポイント地図読み講座を講習していただく。伊藤講師よりテーピングを丁寧に教えていただく。

山岳遭難の件数や原因なども教えていただき、遭難者の半数が六十歳以上の登山者ということで、私もしっかりと注意しようと思う。



経塚山で

各班でコンパスを振り出発する。歩きながら地図上の登山道と実際の山道を確認しながら進む。登り進むと積雪があり、星尾峠でアイゼンを装着、お陰で経塚山の急な登り下りも不安なく歩くことができた。

平坦な笹尾根を進むと船の舳先のような壱岩に到着。ここからの眺めは本当に素晴らしい。浅間山、北アルプス、草津白根などの山々が眺望できた。どの山にもこれから登るから待っていてねと挨拶して意気込む。意



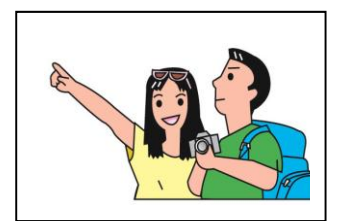
荒船山・壱岩で全員で記念撮影



山頂で 受講生スナップ

二日目は姿の美しい荒船山である。内山大橋より星尾峠、経塚山に登り、壱岩を経て内山峠に下るコースである。用意していた地図には地図読みのための番号がふつてある。

壱岩からの下山道では、苦手の字に開き、つま先から足の裏全体で着地するように練習しながら無事下山する。靴を洗うための水が用意されていたので、泥だらけの靴を洗うことができ、気持ち良くバスに乗り込むことができた。講師の皆様、受講生の仲間達楽しい山行をありがとうございました。



第17期 登山学校

第7回講座
「総合学習登山」

12月1日～2日
(1泊2日)
西上州・鍬柄岳
荒船山
参加者 24名



ツェルト使用体験して



テーピング講習

気込みついでに、こわごわ二〇〇メートルの下をのぞいてみるとやはり直角以下の絶壁である。真下までは見ることができず。不幸な事故に遭われた同じ町内の漫画家をしばし偲ぶ。



岩登りネット活動報告

月日…11月25日(日)

場所…日和田ゲレンデ

参加…合計 15名

訓練内容

AM…子供岩でホールルド・スタン

スの説明、クライミング、

懸垂下降の練習。

PM…男岩でクライミング。

簡単な所は壁様になってい

てすこし難しい所を2本、

懸垂下降。

【参加感想】

朝からいい天気で風も無く、
11月末にしては暖かく、ク
ライミング日和！

私自身は、クライミングジム
に1回行ったことはあるが、実
際に野外で岩に取り付くク
ライミングは初めて。

駅から少し歩き、日和田のゲ
レンデが近くなると人の姿は見
えないが、活気のある声が耳に
入る。

やがて、木の間から「ばーん」
と岩が顔を出す。大きな岩には
ロープが暖簾のようにあちこち
で垂れ下がっている。日和田の
岩は本で見たことはあるが、実
際みたら、結構高い。

子供岩で岩の持ち方や足の置
き方など教えていただき、ク
ライミングに挑戦してみるが、子
供岩は低く取り付きやすいので
楽しかった。懸垂下降もやって
みた。

ハーネスにエイトノットでロ
ープを結び、岩を登ることは出
来るが、一連の動作の前に、テ
ンションをかけブレイの安全を
確かめたり、下りてきたあと確
保者に『ブレイ解除』と言うの
をついつい忘れてしまう。もつ
と、スムーズに出来るように何
度も練習が必要と感ずる。

午後の男岩は午前中の子供岩
と違いかなり高度感がある。
この岩で、少し前に流血事故が
あったと聞き、少し怖くなった。
ひとつひとつ慎重にやろうと
考える。登るのに少々時間もか
かるし人数もいたので、2本登
ったくらいで時間切れとなる。
残念。比較的簡単などころと、
少々難しい壁様のところを登っ
た。

その後の懸垂下降は、最後の
私まではタイムオーバーで回っ
てこなかったもので、次回チャレ
ンジしたい。今日教えていただ
いた事は、メモをとって忘れた
ないようにしたいものだ。



12月～3月の県連活動計画

12/ 1～2 登山学校「総合登山講座」 24名
西上州・楡柄山～荒船山

12/ 3 救助隊雪上搬出技術学習会

12/ 5 三役会議

12/ 8 救助隊雪上搬出訓練(中止)

12/21 第10回理事会

12/24 岩ネット

(25年)

1/ 9 三役会議

1/17 西部ブロック会議、南部(1/18)

1/19.20 登山学校「雪山入門講座」那須岳

1/21 女性委員会

1/22 救助隊新年会

1/27 遭難防止・安全教育担当者会議

第2回評議会

1/30 第11回理事会

ハイキング委員会

2/ 2 登山学校閉校式

2/ 4 救助隊第6回役員会

2/16～17 全国総会

2/24 南・西部ブロック

玉原スノーシュー交流ハイク

2/17 地図読み(初級)実技講座

2/23～24 関ブロ救助隊深雪搬出訓練

2/29 第12回理事会(事務所)

ハイキング委員会

3/ 3 地図読み(中級)実技講座

山スキーネット

3/18 雪山ネット打ち合わせ

3/24 第46期埼玉県連総会

(浦和コミュニティセンター)

第13集会室

3/30～31 雪山ネット「雪山初級・テント泊」

黒姫山

4/15 雪山ネット打ち合わせ

4/20～21 雪山ネット「雪山中級・雪洞泊」



新座山の会

中谷みゆき 記

確保もずつとお願ひしたまま
で申し訳なかったもので、マス
ターとして交代出来るようになるこ
とも必要だと感じた。まずは、
確保用のグロブを用意しなけ
れば。
クライミングは楽しいのだけ
れど、高い所に登るので、危険
もかなりある。油断と慣れには
気をつけて今後も続けていき
たいと思った。

@救助隊 雪上訓練報告

【机上学習】

期日 12月3日(月)

場所 浦和バルコ 10階 第7集会室

参加 徳重・小島・木阪・久保・谷脇・水谷・武笠・長谷川
(8名)

*机上学習内容 冬富士訓練

「ロープを使って安全に登る」

①スタカット確保技術

雪上で尺取り虫の要領で一人づつ歩き、他は確保をす
る

②コンティニアンス

余分なロープを輪(5巻位)にして手に持ち、同時に
歩く

③タイトロープ

ロープの伸びる特性を利用して衝撃を緩衝させ、落下
を止める。ロープ間隔は20m以上

【実技訓練】

期日 12月8日(土)～9日(日)

場所 富士スバルライン

*天候が悪く、訓練は中止となりました。

事務局 長谷川貞子



2013年 県連山スキー交流山行のお知らせ

期日 2013年3月3日(日)

山城 未定(安達太良山?)

主催 埼玉県勤労者山岳連盟・山スキーネット

*詳細は次号でお知らせします。

【申し込み・問い合わせ】

熊谷トレッキング同人 宮田幸男

携帯 090-2721-0949 (午後8時以降)

E-mail miyatan182@leaf.ocn.ne.jp

理事会報告

第10回理事会在が12月21日(水)さいたま市民活動サポートセンターで11名の出席で行われました。

*全国連盟活動

・11/27 新特別基金運営委員会23件審査、交付。埼玉県は交付なし。理事長出席 次回12/25

*県連全体活動

・県連評議会 1/27 印刷 1/26
パルコPM

【事務局】

・カレンダー申込み状況報告
・遭難防止・安全教育担当者会議、評議会案内送付

【財政】カレンダー250部完売

・連盟費全期末納「中部B二団体」

【機関紙】183号編集集中

【組織】

・地方連盟調査票、加盟団体調査表(労山システム用)未提出団体へ提出を再依頼中
・組織実態調査の集約 再度メールをして集約予定

【ホームページ】

・「東日本大震災の被災者に対する活動報告・県連の取組み、活動予定」の掲示場所を変更。
・専門委員会・全国連盟をダブルクリックすると専門委員会の真下に移動揭示させた。

【女性】1/21 女性委員会

・今年度の反省と来年度の予定
・12/19 東日本交流集会反省会

【ハイキング】

「地図読み講習会」

① 第一回(初級) 2/17(日)

② 第二回(中級) 3/3(日)

定員となり締め切りました。

・次回委員会 1/30

【自然保護】

・放射線測定：大菩薩峠、奥多摩・浅間尾根・浅間嶺実施。

【遭難防止・安全教育】

・1/27 担当者会議

・安全登山講演会 登山時報2月号掲載される。

【救助隊】

・12/3 雪上搬出技術机上学習

浦和パルコ10F19:30-21:00

8名

・12/8〜9「実技」富士山予定、天候が悪い為、中止。

【登山学校】11/28 1/11

・第7回講座「総合学習登山」

12/1 鉢柄岳、12/2 荒船山

受講者13名、運営委員11名

計24名

・第8回講座「雪山入門」

1/19〜1/20「那須岳」

・第8回講座「雪山入門」

1/19 机上(カルタスホール)、

1/20 実技「那須岳」

・2/2 登山学校閉校式

【岩ネットワーク】

・1/25 日和田RCT

参加者：14名(浦和2名、

所ハイ4名、新座山の会5名、

飯能2名、わらび1名)

*次回 1/26 日和田山

【山スキーネット】

・3/3 場所：未定(熊トレ宮田)

【雪山ネットワーク】

・3/30〜31「雪山初級テント泊」

黒姫山

計画準備会3/18 パルコ9階

・4/20〜21「雪山中級・雪洞泊」

上越日泊山又は越後八海山

計画準備会4/15 パルコ9階

【ブロック活動】

西部：12/13 1/17 会議

・11/18 高麗川河原・鍋交流

8団体84名参加

・2/24 玉原高原交流

南部：1/18 ブロック会議

・2/24 玉原高原スノーシュー

中部：1/ ブロック会議

・1/17 地図読(御正体山)中止。

・次回企画：雪山のテント泊

【加盟団体活動情報】

総会：熊トレ 12/8〜9 河口湖

*議題

1、安全教育担当者会議

期日：1月27日 9:00〜12:00

場所：高鼻コミセン

① ヒヤリ・ハット事例の検討

② 労山安全サポートシステム

③ 会で経験した事故事例

司会：尾手副理事長

受付：佐藤・長谷川理事

2、第2回評議会

期日：1月27日 13:00〜16:30

場所：高鼻コミセン

議題

(理事長挨拶、議長選出、資格

審査、議題・審議内容：2012

年活動報告、事務局報告、専門

委員会報告。その他)

・報告は理事長が集約。締切日

は1月15日、事務局長宛て

(郵送・メール・FAXにて。

横断幕：木村、印刷 1/26PM

パルコ9F

・議長：南・北部

書記：西・中部

3、その他

・カレンダー250部を完売。

(内訳)

秩父5、深谷1、まぐわ6、山の子

倶楽部3、熊トレ9、浦和5、大

宮19、岩つばめ5、ハイジアル

ベン9、北本4、わらび30、三

郷11、所沢HC12、飯能11、埴

歩歩23、峠山の会17、やまなみ

テ、ヒスターリ13、新座18、あ

すなる10、日和田3、日進5、

上里3、椋山岳会2、アルパイン

NP0やこたま5、計239部。

*残り11部：小松理事1、武

笠理事長10、計250部

小松理事がカレンダー発送

理事長購入支援要請。

4、県連総会

期日 3月24日(日)

9:00〜17:00

場所 浦和パルコ10F・さいた

ま市浦和コミュニティセ

ンター第13集会室

5、その他

・三役会議：1/9(水)

・第11回理事会 1/30(水)

場所：浦和パルコ9階・市民

活動サポートセンター

以上。

理事長 武笠 記

【編集後記】

新年を迎えてから早くも一ヶ月が過ぎようとし、暦上では大寒からもうすぐ立春を迎えます。この正月は年末からの寒波の到来により厳しい寒さが続き、日本海側では例年にない大雪に見舞われました。その為か、新年早々には冬山登山での遭難事故が相次ぎ、安全登山が叫ばれている中でも事故は繰り返されています。天候の急変とは言え、冬山登山を計画するにあたっては、周到な準備と安全登山に心がけ、事故のないように注意していきたいものです。

さて、今年まだ初詣されていない方もいるかと思いますが、今年の全国各地の初詣や初日も様々で、テレビでは富士山山頂上空とスカイツリー展望台からの中継がありましたが、雲の隙間からかろうじて初日のご来光を仰ぎ見る事が出来たようで、関係者も含めて皆感激していたようです。また“ゆく年、くる年”では今だに避難生活を余儀なくされている東日本大震災や福島原発事故による多くの被災者の皆さんが、新たな年を迎えて真剣に祈る初詣姿が切なく、2年目の正月を迎えてもいっこうにはかどらない復興支援がもどかしく、一日でも早く被災者の皆さんが安心して生活出来るように、新たな安倍政権には率先して災害支援の為の予算の施行等に努力してほしいと願っています。

この正月は仕事やら持病の結石による腰痛で、山らしき山にも行けず、久しぶりにしんと降り雪をみて外に出て小犬のように喜んでいた自分が滑稽でもあり、いつも職場の屋上にあがり朝日に輝く雪の山々を眺めたり、夕方には富士に沈む夕日を眺めるのが日課となり唯一の楽しみになりました。インフルエンザが猛威をふるい、花粉症の方にもつらい季節でもあります。健康には十分に注意されて、寒さに負けず元気にハイキングや登山を楽しみましょう。(澤)

県連機関紙「埼玉労山」

原稿募集中

県連に加盟する各山岳会を順番に紹介する「会紹介・会の動き」の原稿を募集しています。加盟している会の特徴やユニークな会活動、また最近の会山行記録等 何でも結構です。また、特集として「わが会得意な山料理・鍋」、「故郷の山、里山」、また、「新年の冬山合宿、雪山山行記録」も随時募集中です。

機関紙委員会 澤藤

sawahuzi1040yamato@hotmail.co.jp

